

# いずみニュースレター

令和 7 年 10 月発行 第 32 号

## 昭和 100 年史と自分史

社会福祉法人いずみ 評議員  
東村山生活実習所 所長 荒井 隆夫

社会福祉法人いずみにて評議員を務めております、荒井と申します。

大げさなテーマとなっていますが、昭和を語ろうとか、自分の歴史を知ってもらおうとか、そういうことではなく、令和 7 年度が「昭和 100 年」として、様々な番組が放送されているのを見て、自分もその時代を生きた一人として、大変でもあり面白くもあり、また新しく斬新な物が次々と出てきて、とても刺激的な時代だったと懐かし思うところです。民放では「博士ちゃん」で多く取り上げられ、NHKでは、放送 100 年を彩るテーマソングとしてサザンオールスターズが歌い、【映像でよみがえる！昭和 100 年シリーズ】が放送されました。戦後の復興からテレビの普及、家庭電化が進み、生活が少しずつ豊かになっていく一方で、水質汚染や公害、炭鉱事故、交通戦争などの社会問題もありました。特に、電車の通勤風景や役所の職員がタバコを吸いながら来客対応している映像は、今では考えられない光景で、とてもショッキングでした。それと、冬季札幌オリンピック開催時は小学生でしたが、授業中にテレビをつけてジャンプスキーの日の丸飛行隊を先生とみんなで見て応援していたことを強く覚えています。

その後、バブル時代が到来し、「24 時間働けますか？ビジネスマン」という栄養ドリンクの CM が流行語になるほど、長時間労働が美德とされた時代でした。

私は田舎育ちで、東京に出てきてから新宿のディスコや原宿のホコ天の竹の子族、ロックンロール族などを見て、活気というか自由というか、とにかくものすごいエネルギーを感じながらワクワクした気分楽しんでいました。ただ、バブル時代はすでに福祉の仕事に就いていたので恩恵にはあずかれず、少しくらやましかったことを思い出します。福祉施策でも昭和に様々な法律が整備され、「保護」から「自立支援・共生」へと大きく舵が切られました。平成になってからではありますが、障害者自立支援（総合）法が制定され、措置から契約へと大きな転換期を迎えました。

時代は常に変化し、常識もそれに伴って変わっていきます。今ではインターネットやスマホの普及により情報が爆発的に増加し、非常に便利になりました。スマホを手放せない依存症とも言える状況ですが、私もその一人です。AI の普及と進化も目覚ましく、業務効率には欠かせないアイテムとして今後さらに活用されていくと思います。しかし、障害者支援は人と人との関わりです。AI では表せない想いや感情をどう表現し伝えていくのか、優等生の回答よりもみんなで試行錯誤しながら少し泥臭く道を切り開いていくことが必要なのではないか、むしろだからこそ人の想いや温もりを感じ取れるのではないかと思います。今の私は、近くの日帰り温泉や、ちょっと洒落た喫茶店（古民家風カフェ、イングリッシュガーデン風カフェなど）を探して出かけることを楽しみにしています。あっという間に過ぎていく時間を、少しでもスローモーションに変えて、同じ時間を少しでも長く楽しめるように生活を送っていければと考えています。

## 創立20周年にあたり

理事長 鈴木 久弥

この度、社会福祉法人いずみが創立20周年という節目を迎えることができました。これもひとえに利用者とその家族の方々や地域の皆様など多くの人達のご理解とご協力・ご支援によるものと深く感謝を申し上げます。

法人20周年と合わせて勤続20年になる職員が10名おりますが、法人いずみの今の発展があるのは、創立当初より地域の皆様から信頼され選んでいただける施設となるよう職員が一体となり努力をした結果でもあります。職員の皆様に対しましても感謝を申し上げます。

平成17年の法人創立以来、あゆみの家やライフサポートつばさの運営にあたり、東村山市の障害者福祉の一翼を担い、地域福祉の発展に寄与してまいりました。

また、この間、児童発達支援事業、放課後等デイサービス事業、居宅介護事業、相談支援事業、グループホーム事業など新たな事業にも取り組み地域の障害児者とそのご家族からも信頼される法人としての地位を築いてまいりました。

さて、法人として今年は20周年となりますが、周年事業としては、記念式典の開催や記念誌の発行が普通となりますが、法人いずみとしては、既存の考え方に捉われないかたちで、式典や記念誌の経費を職員の処遇改善（一時金を付与）やホームページとパンフレットのリニューアルに充てることにしました。

そうすることにより、職員のモチベーションの向上や利用者・保護者及び新規採用者への適正な周知が図れるものと考えております。



あゆみの家



ライフサポートつばさ



ファウンテン1・2号館



いずみホール

社会福祉法人いずみ設立20周年に伴い、各事業所がこれまでの20年（もしくは、事業立ち上げから）を振り返り、これからをどのように取り組んでいくのか、ご紹介させていただきたいと思います。



### あゆみの家成人部（生活介護・重心）

担当：照井 真理恵

開所当時の1993年は、利用者7名からスタートした成人部。現在は25名が在籍しています。医療的ケアの必要な利用者さんは現在10名。年々、医療的ケアが必要な方が増えています。

開所から32年が経過し、利用者さんも年齢を重ねられ、現在は18歳～63歳の幅広い年齢層の方が利用されています。利用者さんの年齢と共に、ご家族もご高齢になられており、以前より社会資源を利用しながら在宅生活を送られているご家族が増えています。

新型コロナウイルス感染症に対して現在も日々思考を凝らし、感染予防対策をしながら利用者が元気に楽しく活動、通所生活を送ることが出来るように今後も支援していきます。







## ひまわり（児童発達支援・重心）

担当：市川 加奈子

あゆみの家幼児部から始まり、2013年に重心のお子さんが安心して楽しく通える場所として「ひまわり（児童発達支援事業）」ができたと聞いています。

ひまわりが開設した頃は1日定員5名に対して、単独療育の定員が3名でした。時代の変化やご家族からの要望により今は5名を単独でお預かりしています。その中で、開設当初から親子療育も大切にしている支援の一つです。

行事や開所日を通してご家族と一緒に楽しみ、他家族も含めた皆でお子さんの成長を見守れる機会を心がけています。

児童発達支援を卒園した後も同じ法人の放課後等デイサービスや成人の事業所で継続して利用して下さる方もいます。そのため、お子さん達の成長を末永く見守ることができ、またご家族とも繋がり続けられる事を、とても嬉しく感じています。

これからもご家族や地域と共に歩み、ひまわりらしい支援を大切にしていきたいです。





## ひまわり（放課後等デイサービス・重心外 / 重心）

担当：安井 翼

ひまわり放課後等デイサービスはどんなに重い障害を持つ子どもたちも、学校と家庭のみの生活ではなく、自分に住んでいる地域での放課後活動を楽しむ機会を作ってあげたい・・・。

そんな思いを持つお母さんたちが集まってスタートしました。

昔は1日の利用人数が7,8人と少なく、今よりもお出かけなどの活動が自由に行えていたと聞きました。野口町からの移転を機に利用人数が徐々に増え、今では1日、15人前後となりました。

人数が多い分、お出かけが難しいこともありますが、その分、友達同士の交流が多く和気あいあいと活動出来ているように感じます。親子、家族行事もバーベキューやいちご狩り体験などたくさんのご参加を頂いております。

また当初の目的であるどんなに重い障害を持つ方であっても放課後活動を楽しむ機会を作るということは今でも変わらず、様々な障害を持つ子どもたちみんなが一緒に楽しめる活動を日々考え、行っています。



いちご狩り



## ファウンテン（グループホーム）

担当：江崎 明子

～ グループホームファウンテンは『2周年』を迎えて ～

あっという間でした。利用者様の頑張りのご家族の頑張りのご協力、そして関係諸機関の皆様からの大きな励ましを受け、職員一同も一歩ずつ前進してきたのではないかと思います。

2年前を振り返りますと1階も2階も夕食開始が夜8時近くなってしまうたり、朝の送り出しがバタバタで送迎車を待たせてしまったり、忘れ物をしたり、洗濯洗剤を間違えて洋服の色がまだらになってしまったり、と色々な失敗がありましたが、今や大変落ち着き、スムーズに生活できるようになりました。何よりも利用者様一人一人の変化、このグループホームがご自分の第二のお家だと思ってくださっている様子を嬉しく思います。

それぞれに家庭環境の変化や体調の不具合、救急対応等も色々ございましたが、その時々適切な対応が出来るようにと努力してまいりました。その経験が今後の安心安全なグループホームでの生活に役に立っていくことと思います。利用者様ご家族様にとって将来に対する不安は尽きないことと存じますが、皆様の将来も含めてここでの生活が継続出来ていきますよう祈るばかりです。

又、様々な事故報告やヒヤリハット報告等が積み重なっております。その度ごとに反省し、改善策を検討し、明日こそはとやっておりますが、同じようなことでまた報告が出てくるといったことを考えますと、日々の業務の在り方や役割分担の見直し、全体に周知を図るところにまだまだ不足の部分があるかと考えます3年目に入るにあたってさらなる努力が課せられていますが、一つ一つ向き合い、利用者様の生活が少しでも豊かなものになるよう、引き続き職員一同努力してまいります。



2周年イベント記念 R7.10.4 お集まりいただいた方全員で集合写真





## ライフサポートつばさ（生活介護）

管理者：千葉 英之

法人いずみが誕生した20年前、ライフサポートつばさは、「東村山身体障害者通所授産所」として活動していました。授産所時代の話を利用者さんから話を聞くと、「当時の活動内容は、革細工、陶芸、袋の紐通しなどの作業を行っていた。陶芸、革細工の製品は、産業祭などに出品して販売していた」とのことでした。

何十年前に、私の成人式の時にいただいた湯飲みが、授産所で作られたものだと利用者さんから、聞き感動したことを思い出します。

2010年4月に生活介護事業「ライフサポートつばさ」が誕生いたしました。

「生活介護になり、作業があまりできなくなり、また、昔からいる古い人がいなくなり、その時は少し寂しかった」と利用者さんが話されていました。

ライフサポートつばさが誕生し15年が経ちました。

今のつばさは、職員より利用者さんの方がつばさでの生活が長い人が多いです。つばさの歴史を知っている利用者さんに、いろいろな事をお聞きしながら、また新しい利用者さんからも、新しい発想をもらいながら、今後も利用者さん、保護者の皆様にとって、安心して通所できる施設を作って行きたいと思います。

最後に、授産所時代から通所されている利用者さんからのコメントで、「施設も、人も変わってきたけど、建物はあまり変わっていないんだよな」との話もありました。（笑）

これからも、利用者の皆さんに元気に通所していただき、近々建物も新しく変えて行きたいと思います。



授産所時代の革細工



現在のつばさの活動風景（バッティング）



## 相談支援事業所トビラ（相談支援・特定 / 障害児）

管理者：村山 暁

社会福祉法人いずみは法人設立20年が経ちましたが、早いと感じるか、まだまだこれからと感じるか、感じ方は人それぞれですが、この20年間は決して楽な道のりではなかったのではないのでしょうか。どちらにしても大変おめでたいことだと思います。

相談支援事業所トビラは2014年に開設され、おおよそ10年の月日が経ちました。その間、地域の多くの方々に利用していただき、障害福祉サービスの円滑な利用のための計画作成をしてきました。法人20年の歴史の中で、トビラは10年と、まだまだ歴史は浅く、その間、様々な困難があり、多くの皆さまからも温かいご支援をいただきながら歩み続けてきたと思いますが、これまで何か問題が生じたときには法人本部を始め、法人内の各事業所が協力し合い問題解決をしてきました。各事業所の問題解決に向けて話し合うのがこの法人の強みや特徴だと思っています。

ここ最近の傾向として、家族状況の変化や障害の重度化により必要なサービス量が増えたり、ご本人の高齢化も進み介護保険の利用を考えるべき年齢になっている方もいるなど、以前にはなかった問題が生じてきています。

時代とともに生じる問題も変わってくるため、その変化に対応するための相談員の力も向上させなければいけないと思っています。しかしながら、一人の力には限界があります。今後も法人職員等にも協力していただきながら地域の皆さんが幸せに暮らせる環境づくりのお手伝いが出来ればと思っていますので、引き続きよろしくお願いいたします。



## ホームヘルプひだまり（居宅介護 / 重度訪問）

サービス提供責任者：北本 大志郎

ホームヘルプひだまりは2003年に産声をあげ、沢山のひとと関わり、紆余曲折ありながら、今年で22歳になりました。

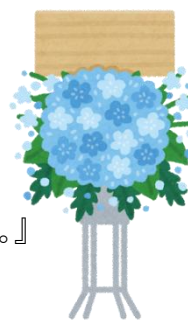
人間で云うなら、大学4年生あたりでしょうか。これからの23年目に向けて、新社会人のような新たな気持ちを持ち、日々の支援に向き合って行きたいと思っています。

これまでにホームヘルプひだまりに関わってきた人達が繋いできたものを守り、次の人達に繋ぐ為、私達は一期一会。日々を大切にしていきたいと思っています。





## 職員ひとこと



テーマ『勤続 20 年以上の職員が思う法人 20 周年。』



所属 管理本部  
名前 松本 恭子

2000年7月、法人いずみの中で、最も歴史のある「あゆみの家幼児部」に「成人部」も兼務する作業療法士として入職し、2005年にいずみとなってから早いもので20年。今は事務局長として法人全体を担当しています。

出会い時は未就学だったお子さんが、今や大人となって生活介護やグループホームで再開できる喜び、相談支援等の来訪時にお聞きする最近のご様子に感動、新規利用の方からは新たな気づき、長く利用されている方からは多くの学びを感じさせていただくことができ、充実した日々の中で挑戦の毎日です。

職員の方々の奮闘がこれらに繋がっていることを考えると、利用者様、ご家族様、職員、全ての方への感謝の20年です。今後も皆様と共に頑張っていきたいと思います。



### 〈私が大事にしてきたこと〉



所属 ファウンテン  
名前 江崎 明子

私は利用者さんとお話するのが大好きです。コミュニケーションとは互いにやり取りをしながらともに作っていくものです。言語でのコミュニケーションが難しい方にも必ず『意思』や『思い』や『気持ち』があり、表情や目・頭・手や身体の動き等々、様々な発信があります。その小さな捉えにくい発信をとらえ、語りかけ、その発信を意味あるものとする、そんなやり取りの連続によって、自分の世界からより広い世界を知っていくのだと考えます。小さな発信をどのように聴くか、支援者間で共有する場をぜひ作っていただきたいと思います。



所属 ファウンテン  
名前 梶沼 知徳

20年前は NP0 あゆみへ就職、スマイルを経て今はファウンテンで勤務しています。

利用者ご家族の皆様や、地域の方々共に行った夕涼み会や新年のもちつき会、あゆみの会の一泊旅行、スマイルで訓練室にテントを張って一晩を過ごす企画等、アクティブに様々なことを行ってきました。当時小学生の利用者が今はファウンテンを利用されています。共に歩んだ20年間。振り返ると、今までの支援の積み重ねが、利用者さまの人生の良い思い出に残っていたのなら意味のある事をしてきたのかと思います。



所属 ホームヘルプひだまり  
名前 星 美佐子

20年……。いろいろありました。ありすぎて何を書いたらいいかわからない。

でも、一番思い出されることと云ったら、やはり、『デンマーク・スウェーデン研修旅行』に行かせていただいたことでしょうか。

参加者9名。9日間の日程で10か所の様々な施設を見学。さすが福祉大国。

どこもすばらしい環境でため息が出るばかりでしたが、何よりも職員の方々の笑顔と『さあ、私たちはこんなステキな仕事をしていますよ！全て見て行って下さい！』という自信にあふれていたことが印象的でした。これからのいずみもそうであるように。まだまだ、がんばります！！



所属 ホームヘルプひだまり  
名前 会田 美信

2005年に社会福祉法人いずみが生まれて20年、ちょうど野球ではセ・パ交流戦が始まった年でもあります。

また、愛・地球博の開催年でもあり、奇しくも今年は大阪万博の開催となりました。

今では当たり前になった交流戦のように、私たちも特別な一日ではなく日常の一部として、そして万博のテーマにあるように日々進歩していけるよう、これからも続けていきたいと思っています。



あっという間の20年で、色々な経験をさせてもらい、私の視野が広がり、豊かになりました。

また、研修や他のヘルパーさんの話し等が、役立ち、支援の見直しをしました。

今後も、明るい気持ちで、利用者さんに向き合い、支援をしていきます。

所属 ホームヘルプひだまり  
名前 田中 陽子



所属 成人部 / ひまわり  
名前 小山 大志

19歳の時に父の知り合いだった職員に誘われ、放課後クラブ「スマイル」(現在のひまわり放課後等デイサービスの前身) にアルバイト入職したのが始まりでした。もともと子どもと遊ぶ事が大好きな私は、『子どもと関わって楽しい仕事に就けて嬉しい。この仕事を続けていきたい』と感じていました。20年経った今でも支援の現場に入る事が楽しくて仕方ありません。また事業所を運営するための事務仕事も好きなため、充実した日々を送らせて頂いています。仕事が楽しい事はすごく幸せな事だと思っていて、この20年で関わらせてもらった利用者の皆様、保護者の皆様、一緒に働いた職員、サポートしてくれている法人にとっても感謝しています。今年度からあゆみの家施設長という皆をサポートできる立場となっていますので、法人いずみに関わる方達が同じように楽しく幸せな気持ちで日々過ごせてもらえたら良いなと思っています。



所属 成人部 / ひまわり  
名前 吉村 淳

20周年おめでとうございます。

社会福祉法人いずみになり早20年。

自分は、この東村山で勤務を始めて9月で丸30年が経ちました。いずみになってから、施設の大規模改修や新規事業の立ち上げ等にも携わらせて頂いたり本当に良い経験を沢山させて頂きました。30年前とは違い、新規事業も利用者様も増え、どの事業所も活気に満ち笑顔が沢山。これから、どのように法人いずみが更なる発展をしていくのか、本当に楽しみです。





所属 成人部  
名前 田中 裕樹

社会福祉法人いずみ20周年おめでとうございます。  
7月からあゆみの家成人部に配属になりました。

成人部のあるあゆみの家の1階は、20年前に私が配属されたあゆみの家幼児部があった場所。当時を共に過ごしたお子さんたちが、今は成人して成人部を利用されています。また日々をご一緒できることに、胸がいっぱいになります。

あれから20年。これまで法人いずみに関わったすべての方々の想いの結晶が、この20年なのだと思います。その結晶を大切に、新たな一步を踏み出していかなければなりませんね。



所属 ライフサポートつばさ  
名前 高木 圭子

社会福祉法人いずみ勤続20年。あゆみの家幼児部に始まって、成人部、スマイル、ひまわりを経験、そして現在ライフサポートつばさで3年目を迎えています。

その経験ができたことは、各事業所がその時々で置かれている状況を理解したり、経験を積み広げていく意味で、大変意義深いことだったと思っています。そして何より、幼児、学齢、成人と、それぞれの利用者さんのライフステージに関わることができた巡り合わせにただただ感謝しています。この20年間のことをざっと思い返してみても、順風満帆な時ばかりではもちろんなく、紆余曲折がありました。しかしどんな時も、利用者さんの支援を通して、私自身が支えられてきたのだということを実感しています。

これからも、人とのつながりを大切にしながら、安心安全な生活を支援していけるよう、一日一日を大切に丁寧に関わっていきたいと思っています。

#### 【編集後記】

今回は、「法人設立20周年」をテーマにしたニュースレターでしたが、いかがでしたでしょうか。

法人いずみが、これから先も長く続いていきますように、皆様これからもどうぞ、よろしくお願いします。

北本

発行元 社会福祉法人いずみ  
東京都東村山市富士見町3-3-4  
TEL 042-394-1868

※記事内の写真についてはご本人、ご家族のご了承を得たうえで掲載しております。